

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107-103	高等学校	地理歴史科	世界史探究	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
81 山川	世探081-903	新世界史 改訂版		

## 1. 編修の基本方針

教育基本法第2条第1号「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。」に留意した点

- ・構造的な部・章の構成と本文の叙述を通して、世界史の大きな流れが理解できるよう留意した。
- ・70をこえるコラムを適宜配置し、今日につながる諸問題の歴史的背景を理解できるよう留意した。
- ・約490点の写真、約170点の地図・図表を付し、「資料から考える」のコーナーも設けることで、歴史を視覚的に理解できるよう留意した。
- ・グローバル化の時代に相応しい「世界史」をめざし、ものの見方を世界の中に位置づけて考えられるよう、本文・発問ともに留意した。

教育基本法第2条第2号「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。」に留意した点

- ・各章の、冒頭にはその章の重要事項に関わる問い、章末にはまとめとなる問いをおき、生徒が自分自身で世界史の流れを整理し、把握できるよう留意した。
- ・本文中にも数多くの問い（できごとの原因や結果、影響を考察する問い、時間や空間を隔てた比較をさせる問いなど）を設け、生徒自身が調べ、考え、発見することを通して、歴史的な考え方や見方を学べるよう留意した。
- ・唯一の正しい答えがない発問も用意し、多様な意見を考え合わせ、そのうえで自分の見解を示すことができるよう留意した。
- ・第I部第1章2節「日常からみる世界の歴史」では、身近な日常生活で接している物品が世界の歴史とつながりを持っていることに気づくよう留意した。
- ・本文のフランス革命における人権宣言やアメリカの奴隷解放、公民権運動、コラムの「人権と人権外交」などから、個人の価値を尊重することがいかに大切かを学べるよう留意した。
- ・コラム「科挙」では現在の公務員試験と比較させ考えさせるなど、「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第2条第3号「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。」に留意した点



	本における茶も扱い、日本の伝統と文化にも触れるよう配慮した（第5号）。	
<b>第II部 諸地域の歴史的特質の形成</b>		
<b>第2章 古代文明的特質</b>		p.16
1 文明の誕生	*第II部扉では、歴史家タキトゥスの文章と発問から、古代の社会について、生徒自ら疑問点などを表現できるようにした（第2号）。	
2 古代オリエント		p.16～17
3 古代の南アジア・東南アジア・オセアニア	*第II部扉に帯年表を付し、世界史の大きな流れを俯瞰できるようにした（第1号）。	
4 古代の東アジア	*第2章扉では世界地図に古代文明の場所と写真を配し、俯瞰的、視覚的に古代文明を捉えられるよう工夫した（第1号）。	p.18～19
5 アフリカと南北アメリカ		
<b>第3章 アジア諸地域の国家と社会</b>		
1 中国帝政国家の形成	*第2章扉では、環境と文明にかかわる発問により、環境問題を意識させるようにした（第4号）。	p.18
2 中央ユーラシアの動向		
3 東アジアの動乱と変容	*第2章「資料から考える 初期農耕文化の形成」では人間の暮らす都市と自然環境の関係性を考えさせるようにした（第4号）。	p.21
4 隋唐帝国と東アジア		
5 南アジア・東南アジア	*第2章「東アジアの自然と文化」では農耕文明と自然の関係性を知ることができるようにした（第4号）。	p.30
<b>第4章 西アジアの帝国と古代ギリシア</b>		
1 古代西アジアの帝国	*第2章「資料から考える 殷・周時代の漢字」では日常使う漢字が古代中国でどのように使われていたか考察できるようにした（第2号）。	p.33
2 古代ギリシア		
3 ヘレニズム時代	*第3章「草原の遊牧民と砂漠のオアシス民」では、環境に応じた生活と歴史を知ることができるようにした（第4号）。	p.45
<b>第5章 古代ローマ</b>		
1 ローマの発展と帝国形成	*第3章「唐と近隣諸国」「資料から考える 東アジア文化圏」では日本の文化が東アジアのなかでどのように形成されたかを理解し考えられるようにした（第5号）。	p.54, 55
2 ローマ帝国の繁栄とキリスト教		
3 ローマ帝国の衰退	*第4章「資料から考える 東西文化の交流」ではシルクロードを通じ、世界の文化が古代日本にやってきたことが理解できるようにした（第5号）。	p.66
<b>第6章 ヨーロッパの形成とイスラーム教の誕生</b>		
1 古代から中世へ	*第4章のアテネの民主制や第5章のローマ市民権の説明、コラム「ローマ人」などから、個人の価値、自主の精神のもと、社会に参加することを考察できるようにした（第2号）。	p.68～69, 81
2 カール大帝とヨーロッパ		
3 イスラーム教の誕生とカリフの政権		
<b>第III部 諸地域の交流・再編</b>		
<b>第7章 結びつくユーラシアの諸地域</b>		
1 イスラーム教とムスリム政権の広がり	*第7章コラム「イスラーム教と男女平等」では世界のジェンダー問題を理解することに役立つようにした（第3号）。	p.112

<p>2 宋と周辺諸国 3 モンゴル帝国</p> <p><b>第8章 キリスト教ヨーロッパの成熟と交流</b></p> <p>1 教皇権の確立と十字軍 2 ヨーロッパの膨張と成熟 3 ヨーロッパの危機と再生</p> <p><b>第9章 交易の進展と東アジア・東南アジア</b></p> <p>1 東西交流の動向 2 明代の朝貢世界 3 大規模交易時代の東アジア・東南アジア</p> <p><b>第10章 アジア諸地域の再編</b></p> <p>1 オスマン朝 2 サファヴィー朝とムガル朝 3 清朝支配の拡大 4 清朝の近隣諸地域</p> <p><b>第11章 ヨーロッパの成長と世界の一体化</b></p> <p>1 ヨーロッパ人の海洋進出 2 世界の一体化とその進展 3 ヨーロッパ近世の始まり 4 宗教改革 5 主権国家体制の成立 6 オランダの覇権から英・仏の抗争へ 7 北・東ヨーロッパの動向 8 近世ヨーロッパの思想と社会</p>	<p>*第7章「東アジアの変動」では、日本の国風文化について世界史の視点から理解できるようにした(第5号)。</p> <p>*第7章「資料から考える 清明上河図と宋代の庶民生活」では、当時の庶民の生活を、資料を通して知ることができるということを意識させるようにした(第2号)。</p> <p>*第7章コラム「科挙」では現在の公務員試験と比較させ、職業及び生活との関連を重視できるように留意した(第2号)。</p> <p>*第8章では、14世紀の天候不良に加えペストが流行したことで社会の不安が増大したこと、またそうしたなかで人間の生と死を考えるルネサンスが誕生したことを学べるようにした(第4号)。</p> <p>*第9章「東アジアの新興勢力」では、戦国から江戸時代の日本を世界史のなかで捉えることができるようにした(第5号)。</p> <p>*第10章コラム「近世日本の対外関係」は「鎖国」を世界史の視点で考えさせるようにした(第5号)。</p> <p>*第11章コラム「生物交換と伝統文化」では、伝統文化と言われるものも、世界の一体化により外来の要素が加わっていることに気づけるようにした(第5号)。</p> <p>*第11章では17世紀の天候不良がヨーロッパの経済危機を招いたことを理解し、自然と歴史の関係を考察できるよう工夫した(第4号)。</p>	<p>p.113</p> <p>p.117</p> <p>p.119</p> <p>p.146～150</p> <p>p.163</p> <p>p.181</p> <p>p.188</p> <p>p.191</p>
<p><b>第IV部 諸地域の結合・変容</b></p> <p><b>第12章 国民国家と近代民主主義社会の形成</b></p> <p>1 商業社会と産業革命 2 アメリカ革命 3 フランス革命とナポレオン 4 反動と改革 5 1848年の諸革命</p> <p><b>第13章 新国家の建設と世界市場の形成</b></p> <p>1 アメリカ合衆国の発展 2 ラテンアメリカとカナダ・オーストラリア・ニュージーランド 3 イギリスとフランスの繁栄 4 クリミア戦争とヨーロッパの再編</p> <p><b>第14章 アジア諸地域の動揺</b></p> <p>1 西アジアの動揺</p>	<p>*第12章「イギリスの産業革命の展開」やコラム「エネルギー革命」では、産業革命による化石燃料の枯渇など、資源・環境問題を考察できるようにした(第4号)。</p> <p>*第12章フランス革命の人権宣言の記述などを通し、個人の価値の尊重を学ぶことができるようにした(第2号)。</p> <p>*第12章コラム「選挙制度」では個人が社会に参画する選挙制度が、各国でどのように作られていったかを理解できるようにした(第2号)。</p> <p>*第13章の奴隷解放や、白豪主義の記述では、人権にはどのような歴史的経緯があるのかを理解できるようにした(第2号)。</p> <p>*第16章の国際連盟の設立の記述やコラ</p>	<p>p.224, 225</p> <p>p.230～231</p> <p>p.244</p> <p>p.248, 253</p> <p>p.308, 309</p>

<p>2 南アジア・東南アジアの動揺 3 東アジアの動揺</p> <p><b>第15章 帝国主義と世界</b></p> <p>1 現代社会の特質 2 帝国主義と列強 3 アジアの民族運動</p> <p><b>第16章 第一次世界大戦</b></p> <p>1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制と欧米諸国 3 アジアの動向</p> <p><b>第17章 第二次世界大戦と諸地域の変容</b></p> <p>1 世界恐慌とファシズム 2 第二次世界大戦 3 戦後の世界と冷戦 4 アジアにおける冷戦 5 冷戦の展開</p>	<p>ム「国際平和の思想と国際連盟」では「正義と責任」について考察できるよう留意した（第3号）。</p> <p>*第17章コラム「歴史の教訓」では、戦争は食い止められなかったのか、各国の状況を考察できるようにした（第3号）。</p> <p>*第17章の公民権運動の記述を通して、人権問題を考えさせるようにした（第2号）。</p>	<p>p.335</p> <p>p.352</p>
<p><b>第V部 地球世界の課題</b></p> <p><b>第18章 第三世界の形成と世界経済の動揺</b></p> <p>1 第三世界自立の模索 2 世界経済の動揺と第三世界の動向</p> <p><b>第19章 今日の世界</b></p> <p>1 紛争解決への取り組みと課題 2 経済のグローバル化と格差の是正 3 科学技術の高度化と知識基盤社会</p> <p><b>課題学習 地球世界の課題の探究</b></p>	<p>*第19章コラム「核軍縮」では核保有国の責任について考察させるようにした（第3号）。</p> <p>*第19章コラム「人権と人権外交」では現代に至る国際的な人権の考え方を知ることができるようにした（第2号）。</p> <p>*第19章「中国の台頭と日本」では日本の国際的な活動を示し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことに留意した（第5号）。</p> <p>*第19章「新たな思想・運動と20世紀の芸術」ではMe Too運動やBlack Lives Matter運動をとりあげ、ジェンダーや人種差別について考察するよう留意した（第2号）。</p> <p>*課題学習 地球世界の課題の探究では、「核の恐怖と軍縮への動き」について考察させ（第3号）、「正しい答え」があるわけではないものに対しても、自分で考え、自分の見解を示すよう促した（第1号）。</p>	<p>p.371</p> <p>p.379</p> <p>p.386</p> <p>p.389</p> <p>p.392</p>

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・地図・グラフの作成においては、カラーユニバーサルデザインに則り、色覚特性のある生徒にも読みやすい配色や線種を使用した。
- ・2次元コードを付し、資料を参照して、より深い学びにつなげられるようにした。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107-103	高等学校	地理歴史科	世界史探究	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
81 山川	世探081-903	新世界史 改訂版		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### A グローバル化の時代にふさわしい「新しい世界史」をめざした記述

#### ●歴史の大きな流れと、今日につながる諸問題の歴史的背景を理解できる

- ・本文は、歴史の大きな流れをわかりやすく描くことにつとめ、標準単位数である3単位で授業がおこなえるよう、適切な分量に調整した。たんに固有名詞を並べたり、できごとを羅列したりするのではなく、歴史的背景と現代に至る国際問題や社会課題との関わりが理解できるよう、丁寧かつ体系的に叙述した。
- ・各時代や地域の記述を相互に関連づけ、横断的（共時的）と縦断的（通時的）の両方の視点から、世界史全体が一枚の織物のように浮かび上がる構成をめざした。
- ・グローバル化の時代にふさわしい「世界史」をめざし、現代社会にそくした多角的な視点を取り入れ、世界史の新しい「スタンダード」をめざし、最新の学界の知見や、専門的な議論にも踏み込みながらも、高校生にとって十分理解しやすい解説を展開した。70をこえるコラムを配置し、世界史における重要な概念や現代の国際問題や社会課題の歴史的背景について詳しく掘りさげ、歴史への興味を引き出せるようにした。
- ・補足的な事項は本文の流れをさまたげないよう注として扱い、また豊富な発問を通じて、原因と結果や時間・空間を隔てた比較をうながすことで、学生みずからが探究し発見できるような構造とした。

#### ●時代の特徴をとらえる部構成

- ・全体を5つの部に分け、立体的な世界史像を提供する。

第Ⅰ部「世界史へのまなざし」 地球と人類の関係史を考察し、また日常と歴史を結びつけて考察することを通じて、みずからの立ち位置を確認させ、歴史の学習を始める導入としている。

第Ⅱ部「諸地域の歴史的特質の形成」 古代文明が誕生してから、世界各地に国家や帝国が生まれる時代を扱う。現代世界においても大きな影響力をもつ宗教の誕生も学ぶ。

第Ⅲ部「諸地域の交流・再編」 10世紀から18世紀にかけて、地域世界どうしの経済的・文化的交流や再編の過程を扱う。

第Ⅳ部「諸地域の結合・変容」 西洋諸国が新しい政治・経済・社会の仕組みを構築し他地域に進出

する様子を描き、この攻勢に対して対応や抵抗を試みるアジア・アフリカ各地の状況が語られる。世界各地の動きが密接に連動している点にも重点がおかれている。

第Ⅴ部「地球世界の課題」 20世紀後半から今日に至る世界の動きのなかで、とくにグローバル化が進む現代世界が直面している課題を指摘し、その歴史的背景を説明する。

## **B** 課題を追究したり解決したりする活動を促す工夫

### ●内容の理解・定着に配慮した構造的な問い

- ・生徒が世界史の大きな流れを、教科書全体を読むなかで理解しつつ、できごとの背景を構造的に整理し、生徒自身で調べ、考え、発見する力をはぐくむために、全体で約400の問いを設けた。
- ・各部の扉には資料とともに「資料からの問い」を設け、学習内容への課題意識や学習への見通しをもてるようにした。また、各章の扉には章全体のテーマに関わる問いをおき、注目すべき点を意識させるようにし、章末にはまとめとして探究的な問いを設け、現代と結びつけた考察をうながした。
- ・本文にも、できごとの原因や結果、影響を考察する問い、時間や空間を隔てた比較をさせる問いなどを多数設け、生徒が自身で調べ、考え、発見することを通して、歴史的な考え方や見方を学べるよう留意した。
- ・「資料から考える」には、資料と本文の記述を結びつけて考え、まとめ、表現させる問いをおき、各コラムには、テーマごとの深い理解や、追究の方向性が示す問いを付して、日常のニュース等がどのように歴史的背景と関連しているかを、生徒自身でも考察できるようにうながしている。

### ●より深い世界史理解を助ける「コラム」

- ・「コラム」は、たんなる歴史上のトピックを取り上げるのではなく、歴史を現代世界にかかわる問題としてとらえたとき、歴史の理解に必要と思われるようなテーマについて詳しく説明している。
- 第Ⅱ部 「スンナ派とシーア派」など現代社会の基礎知識となる宗教関連のコラムも多く設けている。
- 第Ⅲ部 「イスラーム教の男女平等」などジェンダーを考察させるものや、「近世日本の対外関係」など日本を世界史的視野でとらえるものを設けている。
- 第Ⅳ部 「複合革命」「大西洋革命」「移民の流れ」「三角貿易の背景」など、世界の連動性を示したものや、「国際平和の思想と国際連盟」「パレスチナ問題の起源」「歴史の教訓」など、戦争と平和を考えさせるものも多くある。
- 第Ⅴ部 「核軍拡」「2つの和解の試み」「人権と人権外交」など、平和への模索を考えるコラムも設けている。

### ●2次元コードの活用

探究活動のために読み解くべき図版、参考動画を中心に、2次元コードからみることができる資料を30点設けている。

## **C** 地図や資料を読み解く技能を習熟させる工夫

- ・約490点の写真、約170点の地図・グラフ・図表を掲載し、歴史を視覚的に理解できるよう留意した。
- ・写真や地図・グラフ・図表から読み解く技能が習熟するよう、「資料から考える」のコーナーを充実させ、考えを深めさせる問いを付した。
- ・文字資料も約20用意し、それぞれに問いを付して、資料の意味や文脈を把握するための視点を示し、

資料を読み解く技能が習熟するよう工夫した。

- ・地図・グラフの作成においては、カラーユニバーサルデザインに則り、色覚特性のある生徒にも読みやすい配色や線種を使用した。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
<b>第Ⅰ部 世界史へのまなざし</b>	A 世界史へのまなざし		
<b>第1章 人類の歴史と私たち</b>			
1 地球環境からみる人類の歴史	(1) 地球環境から見る人類の歴史	p.8～12	1
2 日常生活からみる世界の歴史	(2) 日常生活から見る世界の歴史	p.13～15	1
<b>第Ⅱ部 諸地域の歴史的特質の形成</b>	B 諸地域の歴史的特質の形成		
<b>第2章 古代文明の特質</b>	(1) 諸地域の歴史的特質への問い	p.17～18	1
1 文明の誕生	(2) 古代文明の歴史的特質	p.19～36	5
2 古代オリエント			
3 古代の南アジア・東南アジア・オセアニア			
4 古代の東アジア			
5 アフリカと南北アメリカ			
<b>第3章 アジア諸地域の国家と社会</b>	(3) 諸地域の歴史的特質	p.37～62	7
1 中国帝政国家の形成			
2 中央ユーラシアの動向			
3 東アジアの動乱と変容			
4 隋唐帝国と東アジア			
5 南アジア・東南アジア			
<b>第4章 西アジアの帝国と古代ギリシア</b>		p.63～74	3
1 古代西アジアの帝国			
2 古代ギリシア			
3 ヘレニズム時代			
<b>第5章 古代ローマ</b>		p.75～86	3
1 ローマの発展と帝国形成			
2 ローマ帝国の繁栄とキリスト教			
3 ローマ帝国の衰退			
<b>第6章 ヨーロッパの形成とイスラーム教の誕生</b>		p.87～103	4
1 古代から中世へ			

2	カール大帝とヨーロッパ			
3	イスラーム教の誕生とカリフの政権			
<b>第III部 諸地域の交流・再編</b>		C 諸地域の交流・再編		
<b>第7章 結びつくユーラシアの諸地域</b>		(1) 諸地域の交流・再編への問い	p.104～105	1
1	イスラーム教とムスリム政権の広がり	(2) 結びつくユーラシアと諸地域	p.106～124	5
2	宋と周辺諸国			
3	モンゴル帝国			
<b>第8章 キリスト教ヨーロッパの成熟と交流</b>			p.125～150	7
1	教皇権の確立と十字軍			
2	ヨーロッパの膨張と成熟			
3	ヨーロッパの危機と再生			
<b>第9章 交易の進展と東アジア・東南アジア</b>			p.151～164	4
1	東西交流の動向			
2	明代の朝貢世界			
3	大規模交易時代の東アジア・東南アジア			
<b>第10章 アジア諸地域の再編</b>		(3) アジア諸地域とヨーロッパの再編	p.165～182	5
1	オスマン朝			
2	サファヴィー朝とムガル朝			
3	清朝支配の拡大			
4	清朝の近隣諸地域			
<b>第11章 ヨーロッパの成長と世界の一体化</b>			p.183～219	10
1	ヨーロッパ人の海洋進出			
2	世界の一体化とその進展			
3	ヨーロッパ近世の始まり			
4	宗教改革			
5	主権国家体制の成立			
6	オランダの覇権から英・仏の抗争へ			
7	北・東ヨーロッパの動向			
8	近世ヨーロッパの思想と社会			
<b>第IV部 諸地域の結合・変容</b>		D 諸地域の結合・変容		
<b>第12章 国民国家と近代民主主義社会の形成</b>		(1) 諸地域の結合・変容への問い	p.220～221	1
1	商業社会と産業革命	(2) 世界市場の形成と諸地域の結合	p.222～244	6
2	アメリカ革命			
3	フランス革命とナポレオン			
4	反動と改革			
5	1848年の諸革命			

<b>第13章 新国家の建設と世界市場の形成</b> 1 アメリカ合衆国の発展 2 ラテンアメリカとカナダ・オーストラリア・ ニューージーランド 3 イギリスとフランスの繁栄 4 クリミア戦争とヨーロッパの再編		p.245～264	5
<b>第14章 アジア諸地域の動揺</b> 1 西アジアの動揺 2 南アジア・東南アジアの動揺 3 東アジアの動揺		p.265～282	5
<b>第15章 帝国主義と世界</b> 1 現代社会の特質 2 帝国主義と列強 3 アジアの民族運動	(3) 帝国主義とナショナリズムの高揚	p.283～302	5
<b>第16章 第一次世界大戦</b> 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制と欧米諸国 3 アジアの動向		p.303～324	6
<b>第17章 第二次世界大戦と諸地域の変容</b> 1 世界恐慌とファシズム 2 第二次世界大戦 3 戦後の世界と冷戦 4 アジアにおける冷戦 5 冷戦の展開	(4) 第二次世界大戦と諸地域の変容	p.325～356	8
<b>第V部 地球世界の課題</b>	E 地球世界の課題	p.357	3
<b>第18章 第三世界の形成と世界経済の動揺</b> 1 第三世界自立の模索 2 世界経済の動揺と第三世界の動向	(1) 国際機構の形成と平和への模索 (2) 経済のグローバル化と格差の是正	p.358 p.359～363 p.364～368	
<b>第19章 今日の世界</b> 1 紛争解決への取り組みと課題 2 経済のグローバル化と格差の是正 3 科学技術の高度化と知識基盤社会	(1) 国際機構の形成と平和への模索 (2) 経済のグローバル化と格差の是正 (3) 科学技術の高度化と知識基盤社会	p.369 p.370～376 p.377～386 p.387～391	5   1
<b>課題学習 地球世界の課題の探究</b>	(4) 地球世界の課題の探究	p.392～393	1
		予備	2
		合計	105